

# 第1回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 委員発言要旨

日時: 令和2年7月28日(火) 13:00~15:00

場所: レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

| No. | 項目            | 発言要旨   |
|-----|---------------|--|
| 1   | 結婚・出産・子育て     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てをビジネスとしてお金を回す仕組みが必要。</li> <li>・夫婦で働いて世帯収入を上げ、子育てをしてくれる人、地域の人にお金を回していくという仕組みを作っていないと、朝から晩まで働いては子どもをつくる環境にはならないのではないか。</li> </ul>   |
| 2   |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の育児参画を進めないと、少子高齢化の歯止めや女性の社会進出はできない。</li> <li>・育児を契機とした女性の離職等を減らすためにも、男性の育児参画が必要。</li> <li>・離婚時の女性の育児負担が大きく、低収入での子育てという過酷な状況に置かれてしまう。</li> </ul>  |
| 3   |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを産んでもらう議論も必要だが、里親やファミリーサポートセンターなど、子育て環境の充実に力を入れて欲しい。</li> <li>・若い人がどうやって幸福な暮らしを得ていくか。結婚しなくても子どもが欲しい人もいる。</li> <li>・新しい価値観を持っている若い世代にどう発信してどう暮らしやすくするのかを考えていくことが大事で、その人たちへの支援も重要。</li> </ul>                                 |
| 4   |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プランを見ると子育て分野は充実しているが、なぜ1人~2人しか子どもを生まないのか、その理由が分かったら対策が立てられるのではないか。</li> <li>・若い社員への出産・子育て支援に対する企業経営者の意識改革が必要。</li> </ul>   |
| 5   |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等デイサービス事業所を立ち上げるには資格者が必要だが、資格取得のための研修機会が少ない上、新型コロナの影響により受講者数も限定している。他県ではオンラインで研修を行っているところもある。</li> </ul>  |
| 6   | 防災・減災         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県は多くの防災士を養成しているが、昨今の災害の激甚化でハードの部分に頼っていないといけない部分がある。</li> <li>・インフラの脆弱性も考える必要があり、今回の災害でも古くなったインフラの影響が大きい。ソフト、ハード双方の両輪によって強くすることが大切。</li> <li>・県が持つ様々な情報(オープンデータ)を防災士や地域の消防団等に提供を行うなど、今以上の防災対策が求められている。</li> </ul>               |
| 7   |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時において支援のコーディネートができる防災士を養成(研修)して欲しい。</li> <li>・福祉避難所の情報が分からずに避難ができなかったという声がかなりあった。2重構造で、指定避難所からワンストップで行けないために、障がいがあるとなかなか行けず避難したくてもできなかったという声が多かった。</li> <li>・自分の命を自分で守れない状況の障がいのある方もいるので、福祉避難所の整備ももう少し進めていけたらと思う。</li> </ul> |
| 8   | 人口増<br>(人口推計) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響もあるが、社会動態の目標に対する下振れが大きい。途中で目標を変えるのは難しいかもしれないが、見直しが必要ではないか。</li> <li>・人口動態には、外国人の移動、出入りが敏感に反応している。大分はAPUなどあるので、外国人の活用が必要ではないか。</li> </ul>   |
| 9   | 人口増<br>(全般)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出産適齢期の女性人口が減ると人口減が止まらない。人口を維持し、増やすためにどういった事業があるのかと考えると、今の事業では希薄だと感じる。</li> <li>・大学で県外に出ていく生徒を減らす。あるいは福岡等に出た若者を県に戻す。そういった事業を強化する必要がある。</li> <li>・県外に出て行く理由として教育、医療、文化どこに問題があるのか把握した上で、そこへのテコ入れが必要。</li> </ul>                   |

| No. | 項目               | 発言要旨  |
|-----|------------------|---|
| 10  | 人口増<br>(移住)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物、海・山という大分県の印象にプラスαで差別化を図る何かが必要。</li> <li>・同性婚、夫婦別姓を認めるなど尖った施策はどうか。SDGsのジェンダー平等にもあるように、性にとらわれず、その中で障がい者、高齢者、子どもという全ての人権が守られるというところが「住みやすい大分県」になるのでは。</li> <li>・野良猫の避妊手術が大分県は無料。画期的な施策であり、「動物も一緒に生活できる県」という打ち出しで移住が増える可能性があるのではないか。</li> </ul>                 |
| 11  | 人口増<br>(市町村との連携) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会増している大分市、中津市、豊後高田市、日出町には市町村の施策があると思う。中津はダイハツ、豊後高田はダイハツのベッドタウン化などあるが、その辺の施策はよく見ておく必要がある。</li> <li>・県の転入転出は九州圏内が約5割と多いため、関東やその他の地域からの転入転出者とでは違う施策が必要ではないか。</li> <li>・大分も素晴らしいが他の地域にもいいところがあるため、基礎自治体がかつと魅力をアピールしていく必要があり、県と基礎自治体が手を組んで役割分担をしてやるのが大切。</li> </ul> |
| 12  | 農業               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化で気温が高くなる中、大分県は中山間地で標高の高い土地が多く、農業には向いている。最低賃金が低いので、雇用側からみるとコストを下げられるというメリットがあるので、県の今後は明るいと思っている。</li> </ul>   |
| 13  | 観光               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光は「住んで良し」が「訪れて良し」になると言われている中で、コロナ禍で約3か月休み、経済は大変だったが、自分の地域について考えることができ、「住んで良し」の部分の豊かさを実感できた。</li> <li>・外国人宿泊客数は今後数年間増えることはない。今までは、国内から海外に2千万人が出ていたが、今後は国内での動き方が大きく変わってくる。コロナ禍で観光業の指標も変えていく、見方を広げていく可能性があるのではないか。</li> </ul>                                     |
| 14  | 戦略的広報            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県の揺るぎない日本一は温泉の湧出量と源泉数。「おんせん県おおいた」のブランド力向上のため、温泉の魅力を国内外に広げていきたい。</li> </ul>  |
| 15  |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光で打ち出せなくなった時に、戦略的広報を今後どうするのか。</li> <li>・観光業や教育業のポータレス化が進んでおり、価値観の変容を促していかないといけない時代。広報もがらっと変えていく必要がある。</li> </ul>   |
| 16  | 働き方              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナで仕事環境が変わり、職員を支えるため労働時間を1時間短縮したところ「自分の時間を持てるようになった。事務作業の時間が減ったが工夫でどうにかする。毎日が楽しい。7時間なら常勤で働けそう」など好意的な意見が多かった。</li> <li>・人口を増やすためには、大分県に来れば(住めば)、心も安らかに仕事もでき、自身の生活時間ももてるという県づくり、一人ひとりがゆとりを持てるようにすることが大事だと感じた。</li> </ul>                                       |
| 17  |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナで大都市への人口集中のリスク分散やリモートワークの働き方ができているが、2年経つと元に戻ってしまうのではないかと。戻さないための施策が重要。</li> </ul>  |
| 18  |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ではなく、ワーケーションという形で人が動いており、福岡や東京から人が来る流れができてきた。仕事に来るついでに観光をしていく。</li> </ul>   |
| 19  | 教育               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人を呼び込むには、大分として自慢できるものをPRできるといい。具体的には教育。移住を考える際に、働くことは新型コロナでテレワークの浸透が止められない流れなので、「子どものため」という部分が大きくなるため、大分に来ると良い教育が受けられるというのが魅力になる。</li> </ul>  |
| 20  |                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方への移住は、高度な医療と教育が重要。移住者はそうした視点で選ぶため、医療や教育などのメリットがあればいいのではないか。</li> <li>・島根県は島根留学といった特徴を打ち出して高校生の呼び込みを活発にしている。そういった、地域未来留学という取り組みが民間で全国的に広がっている。そのような取り組みに着目してはどうか。</li> </ul>   |

| No. | 項目   | 発言要旨   |
|-----|------|--|
| 21  | 教育   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外に住んでいた頃、子どもは塾に行かせるよう先生に言われていたが、大分県に来てからは、子どもが少ないので手厚い教育を受けることができ、塾にいかずに子どもは大学進学までできた。</li> <li>・大分の教育は素晴らしいので、子どもの教育のためだけに大分に来るのもいいが、仕事がないのが現状。</li> </ul>   |
| 22  |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響でオンライン授業がかなり進んだ。今の高校生はICTの活用や郷土学習などが新しい学習として入っているが、この半年で環境が変わり、オンラインが基礎的なスキルになっていくので、最先端を教育現場に落とし込むという事が大切。</li> <li>・県内の高校に視察に行った際、ICT機器は入っているが、先生方は活用のところで苦労していたため、教育委員会への支援をお願いしたい。</li> </ul>    |
| 23  | 地方大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインであれば、通信で都会の大きな大学に通うことができ、地方にいても優秀な講師の授業も受けられるようになり、地方の大学は打撃を受ける。</li> <li>・地元に住んで都会の大学に在籍するとなれば、社会増減にはいいかもしれないが、地方の大学がなくなり、知の拠点がなくなる危機感がある。</li> </ul>  |
| 24  | スポーツ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・RWCが九州圏内では福岡に次いで満足度が高かった。RWCを契機に子どものラグビー人口も増えてきており、スポーツの底力を強くしたい。</li> <li>・ラグビートップチームのキャンプ誘致について、大分市と別府市で競合があり、それぞれが異なる補助金を準備した。県内であれば同じ補助金にして、補助金の余剰部分を他県のキャンプチーム誘致に充てて、他県から誘致できる政策を県として打ってほしい。</li> </ul> |